



<b>佐賀県立佐賀商業高等学校</b>			
〒840-0804 佐賀県佐賀市神野東4-12-40 ☎0952-30-8571			
活動団体	さが学美舎		
主な活動時間	授業の一環として	活動人数	12人
最終審査会発表生徒	高柳 菜月(3年) 今林 あかね(3年)	担当教諭	田原 幸男

## みんなではじめる「e-co ねっと」ごみ減量化作戦

### 【目標・今後の計画】

以下の二つの目標を掲げ、活動を行いました。

1. 将来を担う子どもたちに、環境問題へ高い意識を持ってもらうこと。
2. ごみ減量は意外なところから簡単にはじめられると啓発することで、全国平均を上回る佐賀市のごみ排出量を減らし、環境マインドを持った大人になること。

持続可能な社会を目指して子どももできることを知り、大人の意識も啓発していきたいと考えています。また、今後は佐賀市バイオマス産業都市構想の活動を校外外に広げることも目指しています。

### 【活動内容】

#### 1. 地元の小学生を対象に「e-coねっと」(エコ教室)を開催

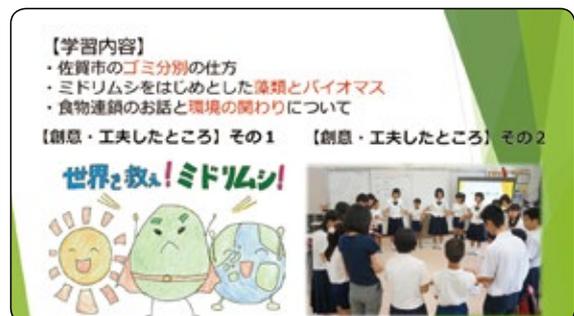
IPCC4～5 (Intergovernmental Panel on Climate Change)を調査研究した私たちは、30年後の地球を想像して愕然とし、将来を支える子どもに環境マインドを持ってほしいと思いました。そこで、昨年夏から「環境を知ろう自由研究講座『e-coねっと』」を開催しています。神野小学校で昨年は7月24日に15名、今年は7月26日に11名が参加しました。

内容は高校生主導で、環境白書や子ども環境白書な

どから得た知識をわかりやすく、ゲームなどの形式にして2時間の学習を行うというものです。クイズや紙芝居など小学生が楽しみながら学べるように工夫しました。その一例として「ごみ分別ゲーム」では、小学生にごみの分別を学んでもらえるよう、高校生が手作りしたごみパネルを、ホワイトボード上で「燃えるごみ」「燃えないごみ」「資源ごみ」「粗大ごみ」に分別してもらうゲームを考えました。自分のごみパネルがどこに分別されるのか楽しみながらも真剣に考えてくれ、引率者や佐賀市環境課の方々にも高評価をいただきました。

また、共同研究に協力していただいている、佐賀市バイオマス産業都市推進課から、「佐賀わくわくサイエンス」のサポートの依頼をいただき、ユーグレナ社鈴木氏とともに活動をしました。「佐賀わくわくサイエンス」とは、佐賀市が進める藻類によるまちづくりについて、より理解を深めてもらうため佐賀市の小学生にミドリムシについて、見て、学んで、味わってもらおうというイベントです。佐賀市バイオマス産業都市推進課が開催したもので、7月29日と8月19日の2回、佐賀市エコプラザで開催されました。

私たちは、このイベントの講師である鈴木氏のサポートとして参加をし、小学生がミドリムシを顕微鏡で観察する際の補助などを行いました。このイベントを通して、小学生もミドリムシが以前より身近に感じ



られるようになったと思います。また、私たちも今回のイベントで初めて知ることが多々ありました。

## 2. 高校生エコチャレンジに参加

昨年に引き続き、佐賀市環境部が主催した「高校生エコチャレンジ」に夏休みの2週間、全校生徒で取り組みました。佐賀市のごみ排出量は、平成26年度に前年度より1748t減少しましたが、平成27年度は730t増加してしまいました。また、「一人1日あたりのごみの排出量」は、全国平均及び佐賀県平均を上回っており、引き続きごみの減量に取り組む必要がある状況です。この「高校生エコチャレンジ」は、「レジ袋を断る」「紙類を資源物として分別する」「割り箸等を断る」「マイボトルを持参」「生ごみを減らす」という簡単な取り組みで、一人あたりのごみの排出量を減らそうというものです。方法は、5つの取り組みの中から実行した内容・回数・量を記入します。取り組み期間後、ごみ減量の合計を記入し、減量した重さを計



算します。ごみの減量を意識して生活することで普段どれだけごみを出しているかを知ることができます。

### 【成果・実績】

#### 1. e-coねっと

小学生にもエコに関する身近な知識に触れてもらえました。今後も継続することでエコ意識を広げていきたいです。また、中学校や企業の方にも参加できるような企画に発展させていきたいです。

#### 2. 高校生エコチャレンジ

生徒一人一人がごみの減量に取り組んだ結果、2015年は全体で104.5kg、2016年には昨年より67.3kg多い171.8kgのごみの減量に成功しました。特に、マイボトルを持ち、ペットボトルのごみを減らす取り組みでは、2015年に55kgの減量に成功。さらなる呼びかけが必要だと思いました。また、現在家庭で排出されるごみの約4割が生ごみで、8割が水分であるといわれています。水切りで、臭いの防止や焼却時のCO<sub>2</sub>排出量も減らせます。家庭ごみは水分を十分に切ってもらようと呼びかけます。

今後は、エコチャレンジを夏休みだけでなく、学期に1回以上定期的に行うことで生徒の意識を高めていきたいです。また、来年度はマイバッグ、マイボトルの持参と生ごみの水切りや食べ残しなしを重点的に呼びかけ、さらに多くの量を減らせるよう努めます。

#### ●活動にあたり創意工夫したこと

1. 難しい内容を小学生にわかりやすく、楽しく学んでもらえるように環境クイズを取り入れたり、授業前に仲を深めるためにアイスブレイクを行ったりしました。
2. エコチャレンジは全国どこでも行えるものなので、多くの学校・団体に取り組んでもらうことができれば、かなりの量のごみが減らせると思います。また、この活動を企業に取り入れてもらうことでコスト意識が芽生え、一人一人の環境への意識を高めることができ、環境改善に繋がると思っています。

#### ●活動の際に苦労したこと

1. 教材の準備や授業前のレクリエーションを考えるのが大変でした。また、難しい内容を小学生にわかりやすく噛み砕いて説明することに苦労しました。エコといっても様々なものがあるので、どのような事柄を紹介すれば小学生に興味を持ってもらえるのかに悩みました。
2. 全校生徒分のデータ結果を集計するのに苦労しました。また、積極的に参加する生徒とそうでない生徒の温度差があったため、これをなくすために呼びかけ方を工夫していきたいです。

### 活動の環<sup>わ</sup>を広げよう 出場者からの提言

◎私たちが取り組んできたエコ活動を全国の高校生に知ってもらうことができ、大変良い機会となりました。また、私たち自身も多くの学校のエコ活動を知り刺激を受けました。審査員の皆様や出場者の方から頂いたアドバイスを生かし、今後もエコの環を広げていきます！  
(今林 あかね・女・3年)

◎エコワングランプリを通して様々な方々と関わり、繋がりを持つことができました。小さなエコが大きなエコに繋がるまでたくさんの時間が必要ですが、私たちの活動を今後も長く継続させるためにもっとたくさんの方々に伝えていけたらと思います！  
(高柳 菜月・女・3年)